

岩堀建設工業と小川工業が事例紹介

女性活躍推進「実践」セミナー開く

県と県建設産業担い手確保・育成ネットワークは11月29日、建設産業の女性活躍推進「実践」セミナーを建産連研修センターで開催した。女性の採用や定着の参考とするために、36社から経営者など46人が参加。先進的に取り組んでいる地元企業の事例から学び、自社に活用できる視点を探った。



講師の清水氏

第1部では(株)エフコネクトの清水亜希子代表取

締役が「建設産業で実践する女性活躍推進とは」をテーマに講演。3児の母親である自身の経験も交え、W人口オーナス期



小川工業の
小川社長室長



岩堀建設工業の
岩本取締役

に見合った働き方として、採用難、定着難、育成難の中小企業における人材課題3大難や、建設業界ならではの課題について解説した。

働く意欲を持った女性

は多くいるが、企業側は、なぜ女性が辞めるのかを実際に検証できずにいる。企業が社員に求めるコミュニケーション能力、主体性、協調性に優れた女性は、企業が望む人材を補ってくれる可能性を持ち、社会的にも期待されている。

女性活躍を進める鍵として清水氏は、トップ・

上司・本人の「意識改革」、現場の声に耳を傾ける「しくみ」、活躍を後押しする「基盤整備」

の3つを挙げ、組織が成果を上げるために、すぐできるポイントとして、▽聴ける化▽言える化▽見える化の3つの行動を伝えた。

休憩を挟み、第2部で岩本氏は「男女関係なく、能力のある人材を採用していききたい。女性が活躍できる雰囲気、気遣



自社の女性採用に生かすため36社から46人が参加した

は、講演を終えた清水氏がコーディネーターを務め、地元企業から岩堀建設工業(株)の岩本聡取締役情報マネジメント事業部長、小川工業(株)の小川幸子社長室長を招き、3人でパネルディスカッションを行った。

小川氏は「なぜ女性ではいけないのか疑問を持ち、平等に選考している。採用担当者が女性に代わったことで、現場監督は男性という固定観念がなくなり、女性採用が進んだ。彼女たちの活躍が会社のイメージアップと受注に貢献している」と、社内で培ったノウハウの共有が進んでいる状況を報告した。

W人口オーナス期II
オーナスとは重荷、負担の意味。働く人よりの支える人が多く、人口構成の変化が経済にとってマイナスに作用する状態を言う。